

迷子防止図鑑 犬編

愛犬を進んで迷子にさせる人はいません。しかし、残念ながら気をつけているつもりでも、うっかりや不注意で逸走は起きています。犬が迷子になると交通事故などで「死」に直面することがあります。このチラシは、犬の迷子に関する調査結果をもとにした、逸走が多い事例と、具体的な迷子防止策を解説しています。愛犬が迷子にならないように、いぬ親さんにぜひ実行していただきたいと願っております。

散歩時の逸走を防ぐ ちばわん調査によると、逸走の約8割が屋外で発生しています。その原因は、首輪・リードが外れた、リードを離してしまった等です。リードは「命綱」です！

散歩はW(ダブル)リードで！

犬は他の犬や猫を急に追いかけることがあります。リードを咬み切る犬もいます。金具の不具合で外れることもあります。Wリードはそれらの事故防止に有効です。

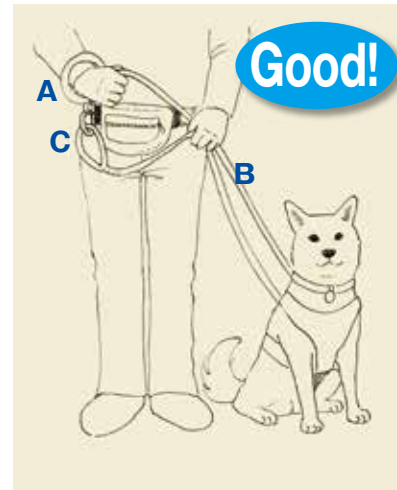
- ゆるみのない首輪と胴輪(ハーネス)を使ってください。
- 首輪と胴輪の両方にリードをつないでください。
- 首輪と胴輪の両方に迷子札をつけてください。

*犬の首輪は、指1本入る程度の隙間があれば苦しくありません。
*首輪と胴輪は、犬の被毛と同系色のものは避け、遠くからでも視認性の高い色のものを選びましょう。(例:黒い犬に黒い首輪を装着させるのはNG)
*多頭引きの場合は、一頭一頭のリードを意識できるように、リードを色分けするのが望ましいです。



Wリードの正しい持ち方

A:利き手を持ち手の輪にくぐらせてリードをつかみます。
B:反対側の手で、リードの中間付近を2本一緒につかみ、犬を制御します。**C:**1本(もしくは2本)のリードを、自分のベルトやウエストポーチなどにカラビナで固定すれば、万が一、リードを離してしまったとき、逸走を防げます。



外れにくい胴輪を使ってください

犬の成長に合わせて適正サイズの胴輪を使ってください。右図のようなサイズ調整が出来ない、足だけ通すタイプの胴輪は使用しないでください。

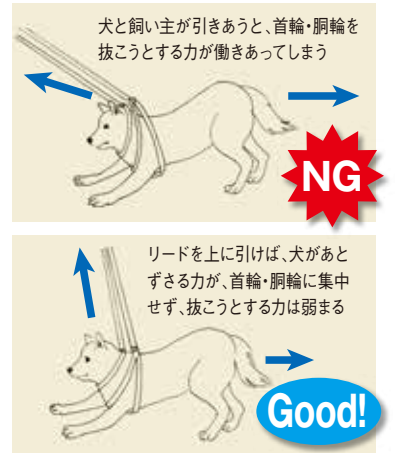


要注意!逸走が起きやすい事例(ちばわんアンケート結果)

- 子どものみがリードを持ち、引っ張られ転倒 → 子ども(中・高生未満)のみの散歩は禁止
- ウンチを拾っているとき、うっかりリードを離す → リードの片方は腰のベルトなどに固定
- 屋外での胴輪や首輪の調整中 → 屋外に出る前に確認し、屋外では調整をしない
- 首輪やリードを付ける前に玄関扉や門扉を開けた → ドアを開ける前のリード繋ぎを徹底

“あとずさり”は危険!

首輪や胴輪がゆるかったり、体形に合っていない場合、犬が前に行くのを嫌がって後ずさるとき、首輪・胴輪が外れてしまうケースがあります。後ずさったとき、リードを引っ張ると、外れるのを手伝ってしまいます。そして、首輪・胴輪が外れると、迷子の保護が難しくなります。右図のように、手前ではなく、できるだけ上に引くことにより、首輪・胴輪抜けを防ぐことができます。



リードを離しても冷静に!

なんらかの過ちで、犬がフリーの状態になってしまったとき、飼い主さんが焦って“大声”を出したり追いかけると、遠くに逃げてしまうことが多いです。慌てずに、しゃがんで優しくオイデと言って、犬を怖がらせないようにしてください。普段から、お散歩の練習のとき、おやつで注意を向けたり呼び戻しの訓練をして、不慮の事故を防ぎましょう。
*呼び戻しの訓練が出来ているときや、犬が充分に慣れているときは、興奮して走って行く犬を止まらせるために声をかける場合もあります。

移動時の逸走を防ぐ 散歩について逸走が多いのが、車でのお出かけや通院時の逸走です。移動先で迷子になったら犬は自宅がわかりません。探すのも大変ですので要注意です!

移動時の正しいクレートの使い方

通院などで外出させるときは、屋外ではなく家の中でクレートに入れてください。その際、犬のリードは外さず扉の下から外に出しておきます。顔の前にリードがぶら下がると、じゃれて咬み切る犬もいますから、リードの余裕を作らないよう調整して、片側をカラビナで「持ち手」などに固定すれば安全です。扉を開ける前にリードを咬み切られてないか確認し、リードをしっかり持ってから扉を開けます。パニックになる犬は周囲を確認して安全な場所を外に出してあげてください。



“車内フリー”は厳禁!

車内でフリーにさせると、ドアを開けたときに、犬は座席の背もたれを簡単に飛び越え脱走します。また、交通事故のときに危険ですから、車内ではクレートに入れるか、ヘッドレストに短いリードで係留させるなどして、フリーにさせないでください。



自宅での逸走を防ぐ 室内からの逸走原因は、うっかりや、来客時に扉が開いていたことが多いです。また「網戸」を破ったり、自分で開けてしまった。という報告が増えています。

家の中でも常に首輪を装着してください

なんらかの理由で屋外に逸走したとき、首輪がない状態だと、迷子の保護が難しくなります。室内でも、いつも必ず迷子札つきの首輪を装着してください。

玄関には必ずペットゲートを設置

来客時、玄関から脱走した迷子事例が多いです。出入り口に、ペットゲートやベビーゲートを設置しましょう。低いゲートは、犬の成長により飛び越えられるようになることもありますので、犬の成長に合わせて背の高いものに替えてください。

犬は浴室で洗ってください

家の玄関先などで犬を洗い、乾かすために首輪・リードを外して、来客やうっかりで門扉が開いていて逸走する事例が多いです。散歩後の足洗いも、特別な事情がなければ、浴室内で洗うようにしましょう。怖がったり、シャンプーでパニックになる犬は首輪・リードを外さず洗って乾かすようにしましょう。



意外と危険な“網戸”

自宅からの逸走事例として報告の多いのが、網戸からの脱走です。中型以上の犬の場合は、網戸に体当たりしたり、爪で引っ掻いて網を破ることがあります。また、2階の窓だからと安心して、屋根に出て脱走することもあります。網戸を破ることができないように、網戸の前にフェンスを置くか、網戸をしなくても空気の入替えが可能な換気扇を設置するなど、脱走防止の工夫をしてください。

